

| | | | | | |
|------|--------|-------|--------------------------------|-------|---|
| 対象年度 | H16 | 作成部課室 | 環境生活部国際交流課 | 関係部課室 | 環境生活部環境対策課・生活・文化課、教育庁総務課・高校教育課、病院局県立病院課 |
| 政策番号 | 4-11-1 | 政策名 | 国際性豊かな人材の育成と県民参加型の国際交流・国際協力の推進 | | |
| 施策番号 | 3 | 施策名 | さまざまな分野の県民の国際交流・協力の推進 | | |

A - 3 - 1 施策の有効性:規則 § 6 3号

有効 概ね有効 課題有

【政策評価指標達成状況から】有効
 ・指標名:公的主体による交流事業で海外と往来した延べ人数 達成度 A
 ・(達成状況の背景)国際化が進展する中で、海外との地域間交流は活発化しており、今後とも拡大傾向で推移する見込みである。
 ・(達成度から見た有効性)県が積極的に友好姉妹関係にある省州県と国際交流・協力を行うことにより、市町村や学生の国際交流を助長し、また、民間交流の一助となっており、施策の実現に有効に機能している。
 【政策満足度から】有効
 ・政策満足度は、過去4回にわたり約60点の水準を維持していることから、有効である。
 【社会経済情勢を示すデータの推移から】概ね有効
 ・海外旅行が身近なものになるにつれ、高校の修学旅行で海外に行くケースも年々増加している。(財)日本修学旅行協会の調べでは全国で海外修学旅行を実施した中学・高校は、昭和57年度に64校約10,000名だったものが、平成15年度には536校73,746名に増加している。
 ・出国日本人数は、15年度がイラク戦争や新型肺炎(SARS)などにより減少を示したが、今年度は前年度比32.1%増の約1,746万名(平成16年度)と増加した。また、訪日外客数も前年度比17.1%増の約626万名(平成16年度)と、一貫して増加傾向にある。
 ・本施策は、海外との交流の拡大に、直接的・間接的に貢献しており、概ね有効である。
 【総括】
 ・政策評価指標達成度、政策満足度、社会経済情勢から判断して、本施策は「有効」である。
 【その他特記事項】
 ・なし。

施策を構成する事業の事業番号と種別

| 事業番号 | 種別 | 事業名 | 事業番号 | 種別 | 事業名 |
|------|----|---------------|------|----|-----|
| 1 | 主 | 友好姉妹省州県交流関係事業 | 6 | | |
| 2 | 主 | 海外技術研修員受入事業 | 7 | | |
| 3 | | | 8 | | |
| 4 | | | 9 | | |
| 5 | | | 10 | | |

主:宮城県総合計画第 期実施計画に掲載されている「主要事業」 重:重点事業のうち主要事業以外の事業

B - 1 施策実現にむけた県関与の適切性と事業群設定の妥当性:規則 § 6 1号,4号

適切 概ね適切 課題有

【国、市町村、民間団体との役割分担】適切
 ・(国)なし。
 ・(県)友好姉妹関係にある省州県と国際交流・協力を行う。
 ・(市町村)友好姉妹関係にある都市と国際交流・協力を行う。
 ・(民間団体)県又は市町村の友好姉妹交流事業に協力する。
 ・県と市町村は、それぞれレベルに応じた規模、内容で友好姉妹交流・協力事業をさまざまな分野で展開しており、本施策に係る事業群は、上記役割分担に沿って実施されており、県の関与は適切である。
 【施策目的を踏まえた事業か】適切
 ・各事業は、施策目的である「さまざまな分野の県民の国際交流・協力の推進」に直結する事業である。
 ・友好姉妹省州県交流関係事業については、友好姉妹関係にある中国吉林省、米国デラウェア州、伊国・ローマ県とさまざまな分野で国際交流・協力を推進する。
 ・海外技術研修員受入事業については、開発途上国からの要請に基づき、必要な専門技術等の習得を目的とした技術研修員を招致し、海外における本県の理解者を育成するとともに、県民が受入先として本事業に参加することを通じて、地域における国際交流・協力の重要性への認識を促す。
 【事業間で重複や矛盾がないか】適切
 ・目的、対象者に応じ事業が適正に設定されており、重複や目的が矛盾する事業はない。
 【社会経済情勢に適切した事業か】適切
 ・国際化が進展する中で、地域特性を生かした海外との地域間交流の促進が求められており、その社会ニーズに適合した事業である。
 【施策重視度と満足度のかい離が大きいか】(事業の必要性)適切
 ・11点と中程度の水準にあるものの、前年より1ポイント増えていることから、引き続き各事業の推進が必要である。
 【総括】
 ・施策目的・県の役割分担・事業体系・社会経済情勢・県民満足度調査の推移から判断して、施策の県関与と事業群設定は「適切」である。

| | | | |
|------|---|-----|-----------------------|
| 施策番号 | 3 | 施策名 | さまざまな分野の県民の国際交流・協力の推進 |
|------|---|-----|-----------------------|

B - 2 事業群の有効性:規則 § 6 2号

有効 概ね有効 課題有

【施策満足度から】 有効
 ・施策満足度は、H16が59点であるものの、過去3回にわたり約60点の水準を維持していることから、有効である。

【政策評価指標達成状況から】 有効
 ・現況値は、昨年とほぼ同じで、仮目標値を上回っており、有効である。

【社会経済情勢を示すデータの推移から】 有効
 ・海外との交流は活発化しており、今後とも拡大傾向にあり、施策の目指す方向に向かっていくことから、有効である。

【業績指標推移から】 概ね有効
 ・年度によって事業内容が異なるため、往来延べ人数の増加に直に反映されないものもあるが、施策全体としては施策の目指す方向に向かっていくことから、概ね有効である。

【成果指標推移から】 判定不能

【総括】
 ・施策満足度は同水準を維持、政策評価指標は目標値を達成し、社会経済情勢の推移も施策の目指す方向に向かっていく。また、事業によっては業績指標に反映されないものもあるが、施策全体としては施策の目指す方向に進んでいることから、事業群の有効性としては、「有効」と判断する。

B - 3 事業群の効率性:規則 § 6 3号

効率的 概ね効率的 課題有

【施策満足度 業績指標・成果指標】 判定不能
 ・施策満足度はほとんど変動がみられないことから、判定不能である。

【政策評価指標達成度 業績指標・成果指標】 概ね効率的
 ・政策評価指標値は施策の目指す方向に推移し、中国吉林省友好交流事業や米国デラウェア州姉妹交流事業の業務指標も増加傾向にあることから、概ね効率的である。

【社会経済情勢データ 業績指標・成果指標】 概ね効率的
 ・海外との交流が拡大傾向にある中で、中国吉林省友好交流事業や米国デラウェア州姉妹交流事業の業務指標は増加傾向にあることから、概ね効率的である。

【事業費に対する業績指標の割合(効率性指標)が適切か】 概ね効率的
 ・伊国ローマ県姉妹交流事業の効率性指標が低下しているが、これは海外往来人数の増加とは結びつかない事業の実施によるものである。全体的には概ね変動がないとみられることから、概ね効率的である。

【総括】
 ・判定不能の項目もあるが、施策満足度、政策評価指標等の各種データや業績指標の推移を総合的に勘案した場合、事業群の効率性は「概ね効率的」と判断する。

B 施策評価(総括):規則 § 6

適切 概ね適切 課題有

・県関与の適切性と事業群設定の妥当性が「適切」、事業群の有効性が「有効」、事業群の効率性が「概ね効率的」であることから、施策評価としては、「概ね適切」と判断する。
 ・政策目的を実現するための具体的分野として重要なものであり、政策評価指標(公的主体による交流事業で海外と往来した延べ人数)の目標値を達成するため、引き続き重点的に実施する必要がある。

政策評価指標分析カード(整理番号1)

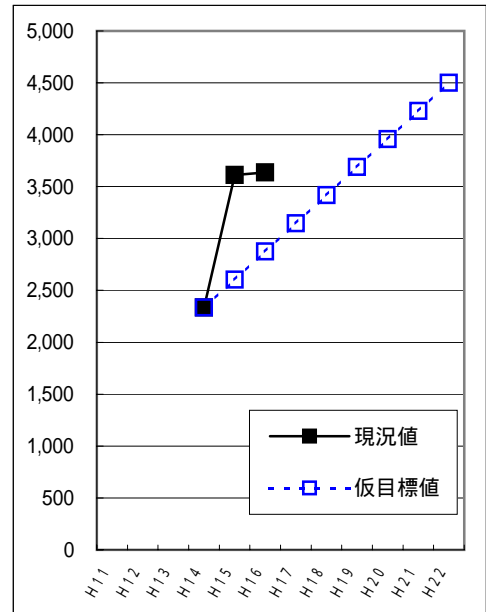
政策整理番号 35

| | | | | | |
|------|--------|-------|--------------------------------|-------|---|
| 対象年度 | H16 | 作成部課室 | 環境生活部国際交流課 | 関係部課室 | 環境生活部環境対策課・生活・文化課、教育庁総務課・高校教育課、病院局県立病院課 |
| 政策番号 | 4-11-1 | 政策名 | 国際性豊かな人材の育成と県民参加型の国際交流・国際協力の推進 | | |
| 施策番号 | 3 | 施策名 | さまざまな分野の県民の国際交流・協力の推進 | | |

(1) 政策評価指標の推移

| 政策評価指標名 | | 単位 | | | | | | |
|-------------------------|-------|-----|-------|-----|-------|-------|-------|-------|
| 公的主体による交流事業で海外と往来した延べ人数 | | 人 | | | | | | |
| 目標値 | 難易度 | H17 | 3,146 | H22 | 4,500 | | | |
| 評価年 | 初期値 | H11 | H12 | H13 | H14 | H15 | H16 | H17 |
| 測定年 | H13 | | | | H13 | H14 | H15 | |
| 現況値 (達成度判定値) | 2,334 | | | | 2,334 | 3,613 | 3,638 | |
| 仮目標値 | | | | | 2,334 | 2,604 | 2,875 | 3,146 |
| 達成度 | | | | | ... | A | A | |

政策評価指標値の推移(グラフ)



難易度: (トレンド型目標 実現が可能), (中間型目標 実現が困難), (チャレンジ型目標 実現がかなり困難)

(2) 指標の選定理由

・県及び市町村、学校等の公的主体による交流事業によって、主体的、意識的に国際交流に関わった県民及び外国人で、直接海外と往来した延べ人数。

(3) 施策満足度の推移

| 施策満足度 (単位:点) | 年度 | H12 | H13 | H14 | H15 | H16 | H17 | H18 | H19 | H20 | H21 | H22 |
|-----------------|---------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| | 施策重視度 A | - | | 70 | 70 | 70 | | | | | | |
| 施策満足度 B | - | | 60 | 60 | 59 | | | | | | | |
| かい離 A-B | - | | 10 | 10 | 11 | | | | | | | |

(4) 政策評価指標の妥当性分析

| ア 達成状況の背景(未達成の場合はその理由等)・今後の見通し | イ 達成度と施策満足度の推移の相関 |
|--|---|
| 達成度:A ・現況値は、昨年とほぼ同じであり、仮目標値を上回っている。 ・国際化が進展する中で、海外との地域間交流は活発化しており、今後とも拡大傾向で推移する見込みである。 | 判定:... ・達成度と施策満足度にほとんど変動がみられないことから、両者の推移の相関は不明である。 相関の判定: (正の相関)、×(負の相関)、...(判定不能 満足度あるいは達成度の変動がない、または達成度が判定不能のため相関の検証ができない場合等) |

(5) 政策評価指標の妥当性の検証(総括)

存続

要検討

【施策の有効性を評価する上で適切な指標か】
 ・本指標は、公的主体による交流事業で、施策目的である「さまざまな分野の県民の国際交流・協力の推進」に直結するものである。
 ・県が積極的に友好姉妹関係にある省州県と国際交流・協力をを行うことにより、市町村や学生の国際交流を助長し、また、民間交流の一助となっており、施策の実現に有効に機能している。
 ・社会情勢や財政事情等により左右される難点もあるが、政策評価指標として適切である。

